

## 新型コロナ危機下の ASEAN

大庭三枝 神奈川大学法学部

新型コロナの流行によって国際社会が大きく動揺する中で、米中対立はますますエスカレートしている。ASEAN を含むアジアの経済発展を支えたモノや人の移動が遮断され、各国に大きな経済的打撃を与えている。また ASEAN 諸国の一部に見られた権威主義体制がコロナ対策の名の下に強化された。さらに経済的打撃による各国内の経済的格差の増大、また各国のコロナ対策のための多大な政府支出による財政への影響も見逃せない。

本報告は、こうした新型コロナ危機下で、ASEAN 諸国が、ASEAN や ASEAN アーキテクチャにおける協力を通じた取り組みによってこの危機に対応しようとしていること、また米中日といった主要な域外国による ASEAN 及び ASEAN 諸国への関与が強化されていることに注目する。そしてそれらについての状況や事実関係を整理した上で、すでに新型コロナ危機以前より顕在化していた東アジア地域秩序の変容に、こうした状況がどのようなインパクトを与えているかについて暫定的考察をすることを目的としている。

本報告は、(1) 新型コロナの封じ込めに関する協力、(2) 新型コロナの経済的社会的打撃を軽減、克服とその後の発展を促すための協力、(3) 南シナ海問題に関する協力や連携、の三点に着目する。その上で、それら三点に関して、新型コロナ流行の発生後の ASEAN および ASEAN を中心とする諸制度（アーキテクチャ）における協力その他の活動について整理する。さらに、この三点について、中国、アメリカ、日本といった域外国の ASEAN および ASEAN 諸国への支援や協力の事実関係についても整理する。その上で、こうした新型コロナ下の様々な取り組みが、ASEAN をはじめとするアジアにおける地域主義の発展の方向性にいかなる影響を及ぼしているか、それらはどのような問題や課題を内包しているか、さらにこうした ASEAN や中米日の様々な協力や支援の動きが、すでに新型コロナ危機以前より顕在化していた東アジア地域秩序の変容にどのようなインパクトを与えているかについて暫定的考察を行う。